

乗務日報自動作成システム導入で、運行管理・労務管理を効率化

事業 運輸業

- ・電子決済システムや配車アプリの導入等、DXによる省力化に積極的に取り組んでいる。

[illegible]

- ドライバーが運行1回ごとに乗降地、金額、休憩時間・場所を記載するため負担になっていた。
- 計算が合わなかったり、乗降場所の記載を誤るなどの間違いが発生していた。
- 運行管理者もドライバーが手書きで作成したものを確認・整理するため負担になっていた。

- **ドライバーも運行管理者も乗務日報の作成に関する手間、時間が削減された。**
- **1日の運行回数が20回程度とした場合、日報の記載には1運行あたり1～2分程度要し、ドライバー 1人あたり1日30分程度削減が見込まれる。**
- **その結果、時間効率が向上し、より多くの運行が可能となる。**
- **運賃が自動で集計されるため計算ミス、確認ミス等がなくなった。**

- GPSやタクシーメーターと連携し、車両の位置や状態をリアルタイムで把握し、乗務日報を自動で作成
- 休憩時間の記録も可能で労務管理にも役立つ

成果

[illegible]

- 1日1車あたりの運行回数が16.3回（前年同月比7%増）に増え、1日1車あたりの運送収入が32,983円（前年同月比15%増）に増えた。
- 運行管理、労務管理に係る時間が従来の約3分の1に短縮。